



# ふるさと納税使い道実績 | 令和3年度

①村の資源を活かした新たな雇用の創出  
寄附額19,238,500円



丹波山村では新たな雇用を創出するため、村の農林産業の活性化及び新庁舎建設地の宿（しゅく）地区の再生事業などのいくつかのプロジェクトを推進しています。村の古民家を改修したカフェもオープンし、新たな雇用が創出されました。また、交流促進センターをテレワークできる施設へ改修し、会員企業様から従業員様が訪れて丹波山村で仕事ができる環境が整いました。今後も引き続き寄附者様のご支援をいただき新たな事業を創出していきたいと思います。

## ②観光の振興による交流人口の拡大 寄附額6,602,500円



丹波山村では、観光立村を目指し観光振興に注力しています。観光資源である、山々の登山道は自然災害で傷んでしまい、維持修繕に多額の費用がかかっています。また、村内にある観光施設（ローラーすべり台や釣り場、のめこい湯など）についても経常的に維持管理費がかかっている状況です。そのため、登山道整備や観光施設の維持管理費の一部にふるさと納税を利用しております。今後も丹波山村にある自然を活かした観光資源の維持管理やさらなる磨き上げにふるさと納税を活用させていただきたいと思っております。

### ③首都圏からの移住・定住促進 寄附額3,523,500円



村外からの移住促進に向けて各種施策を推進しています。その一環として、丹波山村のブランディングや新しいライフスタイル提案に資する、事業意欲の高い移住者のための快適でリーズナブルな価格の住宅モデルの創出に取り組んでいます。令和3年度には、丹波山村ビレッジハウスプロジェクトとして押垣外地区にパイロットハウスを昨年度に引き続き1戸建設しました。その事業費の一部にふるさと納税を利用させていただきました。令和4年度においても村外からの移住者向け住宅建設計画しており、ふるさと納税を活用させていただきたいと思っております。

#### ④安心して子育て出来る村づくり 寄附額29,574,000円



丹波山村では小学校及び中学校がありますが、国の定める学級編成基準に照らして、児童又は生徒数が少なく、丹波山村では、県から配置される教員だけでは複式学級になってしまうため村単独で教員を採用しており、その費用の一部にふるさと納税を利用させていただいております。また、放課後子ども教室管理運営、児童・生徒の悩みや不安を低減するため「ほっとサポート」による臨床心理士の定期的な訪問費、子ども医療費の全額補助や小中学校教育費（教材費、給食費、修学旅行費など）の完全無償化費用にもふるさと納税を利用させていただいております。今後も安心して子育て出来る村づくりを行うためふるさと納税を活用させていただきたいと思っております。

⑤生涯健康で安心して暮らせる村作り  
寄附額17,528,000円



丹波山村では、保健・医療の充実、高齢者の生きがいがづくりと社会参加、介護サービスの充実を目指して様々な事業をおこなっております。その中でいきいき健康クラブ事業や丹波山村社会福祉協議会運営補助金などの一部にふるさと納税を利用させていただいております。今後も丹波山村が生涯健康で安心して暮らせる村作りを行っていくためにふるさと納税を活用させていただきたいと思っております。

⑥その他の使い道（おまかせ）  
寄附額40,000円